

今年度の実践を 振り返って

公開講座 教材教具研修会(夏季研修会)

<内容>

- ・ 日常使用している手作り教材や、書籍の紹介
- ・ 自立活動の教材、指導内容の紹介
- ・ 校内の教室環境の見学
- ・ 質疑応答

<参加者>

地域の幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の教員
および市の職員 約80名



教材教具研修会 成果と課題

<成果>

- ・ 多数の参加があった
- ・ 地域の先生方のニーズに合った研修で、非常に好評であった
- ・ 今年度、教室見学を入れたことで、より具体的に支援方法を伝えることができた
- ・ 本校教員の協力で、各場所で詳しく説明することができた(教室見学)

<課題>

- ・ 長時間の研修
- ・ 準備段階での本校教員の協力体制づくり
- ・ 学校園により、実践や意識に差がある

実践の中で学んだこと

- ・ 地域における特別支援学校のセンター的役割
- 地域のニーズは何か？
- 「すぐに使える」教材、授業内容の紹介
- ・ 学校園の校種別ニーズに応える必要性
- ・ 「自立活動」に関する教材や情報が求められている
- ・ 初めて特別支援学級を担任する先生方への研修会のお知らせ



地域とセンター校をつなぐ

実践活動の今後に向けて

- ・ 各学校園が自身の力で課題に取り組んでいけるよう、体制を整え、引き継いでいく。
- ・ 学級経営や授業内容など、各学校園での組織的な支援体制を促す
- ・ 各学校園の強みを活かす
- ・ エリアコーディネーターや特別支援教育推進員との連携(特別支援学校コーディネーターが校区内全校を巡回するのは限界がある)
- ・ 地域支援の要請が上がってこない学校へのアプローチ

地域支援づくりへの提案

エリアコーディネーターとの連携

特別支援学校、エリアコーディネーター
それぞれの役割を確認



エリアコーディネーターを核とする支援体制の構築
特別支援学校：センター的機能



学校解決力の向上

☆すべての基本は、対話によるコミュニケーション
対話を促進させ、引き出していくスキルもコーディネーターの専門性